



学校教育目標 ◎かしこく ◎なかよく ◎たくましく ◎心ゆたかに

## 4年に1度

校長 佐藤 信孝

2026年も世界的なスポーツイベントが盛りだくさんです。2月6日からはミラノ・コルティナ2026冬季オリンピックが始まり、3月には野球の世界・ベースボール・クラシック(WBC)東京プール、6月にはアメリカ・カナダ・メキシコの3か国でサッカーのFIFAワールドカップ2026が開催されます。どの大会でも日本代表の活躍が楽しみで、今から胸が高鳴ります。



オリンピックもワールド・ベースボール・クラシック、サッカーのワールドカップも4年に1度開かれます(WBCはコロナ禍の関係で前回は2023年)。古代オリンピック祭典が4年ごとだったことも影響していると言われていますが、オリンピックもサッカーのワールドカップもWBCも4年に1度となったようです。「4年ごと」というのは、大会としての特別感や選手たちの準備ということでも「ちょうどよい」期間のようです。見る側にしても、前回大会を思い出しながら、今大会はどんな大会になるだろうと、想像をふくらませやすいのかもかもしれません。

前回の北京冬季オリンピックで私が特に印象に残ったのは、スノーボードハーフパイプの平野歩夢選手です。この種目には、オリンピックで3度金メダルを獲っていたショーンホワイト選手という絶対的存在がいました。北京大会で平野選手は、ショーンホワイト選手を含む強豪たちを退け、金メダルを獲得しました。競技後に平野選手を称えるショーンホワイト選手。時代が動くことを感じました。

平野選手は、新潟県出身ですが、幼い頃は練習場を求めて山形県や福島県のスキー場に通っていたそうです。特に、5年生が夏に訪れる「館岩」がある南会津町の会津高原南郷スキー場では、小学3年生の頃から毎年のように練習を重ねました。南郷スキー場は、今年も泰平中学校を含む12校が「自然の教室(冬季)」に利用します。平野選手は地元の方の家に下宿し、自分で決めた練習は吹雪であろうが行い、幼い頃から目標を設定して、それに向けてコツコツと取り組み続けてきたと言います。小さな体で大人に混じり、誰よりも高く跳び、技を磨き続けた姿は、努力の積み重ねそのものです。

平野選手はこれまでに4回オリンピックに出場しています。2014年ソチ、2018年平昌で連続銀メダル。特に平昌オリンピックでは高得点を記録しながらも逆転でショーンホワイト選手に金メダルを奪われていました。そして、前回2022年の北京。前年には東京オリンピックが1年遅れて開催され、平野選手はスケートボードの競技に出場していました。その半年後の金メダル獲得でした。

何年も努力を重ねてきた選手にとっても、4年という時間は決して短い時間ではありません。多くの出来事があります。彼らを支える人々、同じように目標を立て敗れていったライバルたちの存在も忘れてはなりません。スポーツは観るものを感動させます。その圧倒的なパフォーマンスに、勝負事の勝ち負けのドラマに、その場にたどり着くまでの、これからの物語に。今年のスポーツイベントも、泰平小の子どもたちにとって、今後の生活、これからのスポーツライフにつながるよい機会となればと思います。

\*

寒さも本格的になる時期です。どうぞ、お身体を第一にしながら、児童の見守り活動へのご協力を、引き続き、よろしくお願いいたします。